

## 沼の辺の 新たな居場所

*The Space Newly Made on the Pond*

2017年4月に始動した手賀沼プロジェクト。学生自身が設計・デザインした空間が実現するという実践的なプロジェクトの過去、現在、そして未来をレポートする。



昨年度施工部。空が広い。

## 「たまりからわんどへ」

手賀沼PJで中心的に活動されている修士2年の清水氏に寄稿をいただいた。

text\_FUJIWARA /M1

*Redesign the static spaces to be more fluid*



▲図面を見ながら現地調査をするPJメンバー

昨年は手賀沼PJ初年度の活動として「手賀沼フィッシングセンター」外構整備の基本計画・設計を行いました。柏市が手賀沼沿いの様々なアクティビティの拠点としてこの場所を整備する3カ年計画の、記念すべき工事第1弾です。

M1が3名、博士が1名、そして永野助教という体制で、敷地内外を一定間隔内に点在する居場所をつないで人の流動・滞留を促す「たまりからわんどへ」というコンセプトの下、デザインを試行錯誤し、模型作成やモデリング、材料の選定に各主体との打ち合わせを重ね、無事1年目の整備完了にたどり着きました。

石や木の配置にこだわる、これまで扱ったことのない細かいスケール感、関係者に納得し、気に入ってもらえるストーリーの組み立て、複数案を作成しての比較検討など、新鮮で楽しくも根気の要る活動でした。

今年は2年目。これからも良好な空間を生み出していく予定ですが、大事なものは「作る」と並行して「使う」こと。どうすればみんなにその空間を気に入ってもらえるのか、どうすればそこが沼を周遊する人の止まり木になれるのか、その空間にどんな使い方ができるのか。郊外都市柏のそのまた郊外部で、レジャー空間型のプレイスメイキングの探求です。

## 生き物と人の 居場所を目指して

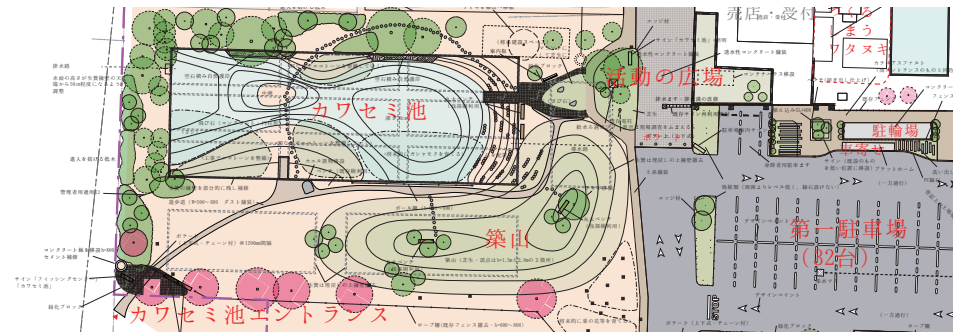
*To be the space of relief for all lives*

新たに筆者を含むM1が2名加わった今年度は施設内の自然観察池、第一駐車場、曙橋エントランスから駐車場までの車路の基本設計を行った。すべて紹介したいが、紙面の都合上、筆者が関わっていた自然観察池(仮称:カワセミ池(右図ひだり))を取り上げる。

今回の基本設計では「生き物と人が共にくつろぐ水辺」をコンセプトとしている。手賀沼周辺で鳥類の調査を行っている鳥の博物館(我孫子市)の方に鳥類についての基本情報を伺ったり、現地を見ていただいたりしながら設計を進めていった。

生き物と人が同じ空間でくつろぐには、ある程度両者の距離をとるべきという観点から、敷地を南西から北東にかけて園路(右図茶色部)で2分し、北側を生き物のエリア、南側を人のエリアとした。生き物のエリアでは既存樹を活用し水辺から地上にかけて水生植物→草本植物→木本植物というように緩やかに環境を変えるエコトーンを形成し、多様な生物が生息できる環境を計画した。対する人のエリアでは高さ1.5m程度の築山を設け、隣接する駐車場からの影響を受けづらくした。また、鳥類が緑地(ステッピングストーン)を渡っていくように、敷地内に魚礁(リーフ)に見立てた居場所を約30m間隔程度で設ける「ステッピング・リーフ」という考えのもと居場所を計画した。

計画されている場所には手賀沼漁業協同組合が養殖池として使用していた12もの生け簀が並んでいる。漁協の活動が縮小するとともに、生け簀は埋められ



▲自然観察池(カワセミ池)および第一駐車場の基本設計図面一部

ドッグランやBBQ場、駐車場などに転用されその数を減らしている。その中でも生け簀が数多く残っているこの場所はフィッシングセンターの記憶を残すという点で重要であると考え、9つの生け簀の擁壁を繋いで1つの外壁とし、南北方向、東西方向に2箇所デッキ状に擁壁を残し、生け簀の形を残すように計画した。

手賀沼PJではこのような居場所を「作り」、「使う」ことを目的としており、11月中旬にフィッシングセンターとその周辺を活用した水辺イベントを計画している。ぜひ皆さんに足を運んでもらいたい。



▲9つの生け簀の輪郭を残しつつ1つの池とする

### 手賀沼フィッシングセンター

「沼中棲魚中、手賀沼製の名は本場物として帝都に高し。」(千葉県東葛飾郡教育会「1936」と大正期の郷土誌に記されているように手賀沼は漁業が盛んであった。その沼の最先端に位置する手賀沼フィッシングセンター(千葉県柏市曙橋字若舳1)。JR常磐線柏駅からシヤトルバス、我孫子駅・湖北駅から路線バス、道の駅から遊覧船など様々な方法でアクセスすることができる。

## 2018年度日本建築学会大会【東北】

9月の4日から6日にかけて、東北大学・川内北キャンパスにて今年の建築学会が開催されました。東日本大震災から7年が経った今、震災後初めての東北での学会となりました。テーマは「未来」／「記憶」。震災の記憶を伝え、とどめつつも、未来に向かって進んでいかなければならない、そんな意味が込められた学会です。

自分が今まで携わってきた経験から得た「知」を発表し、同時に自分が知らない、他者の「知」を得ることのできる貴重な場。当研究室からはD1 濱田・M2 岡山・M2 但馬の3人が参加しました。マガジン編集部・但馬より報告です。

今回は私の携わっている三国プロジェクトの昨年度研究成果を発表しました。これまでの三国の不動産継承と、将来の継承意向を把握することで三国の空き家発生要因を明らかにして今後の空き家問題の解決のための示唆を得ると



▲学会前に訪れた石巻。復興はまだ続いている

いう内容です。質疑応答では横浜国立大学の野原卓先生や東京工業大学の真野先生から、不動産継承に関して三国ならではの事象はないのかという質問を受けました。

もちろん、他の人の発表を聞く機会もありました。自分が興味を持っていたのは歴史的市街地や拠点整備論のような話でしたが、何気なく入った部屋の発表がすごく面白かったりして、知らなかった世界に触れられるのは学会の良さなんだと感じました（「学会はフェス」という言葉がすごくわかります）。

また、震災復興に関するシンポジウムも聞きましたが、前日に石巻・女川を見ていたりしたことで場所のイメージが容易にできて、現場を見ることの大事さを感じました。

学会は自分の研究を他の人に評価してもらえ点や、面白い人や研究に出会えるという点で行って良かった。来年は後輩や同期誘って金沢に行ければと思っています。



▲「西村研ファミリー」の集合写真。窪田先生の地域デザイン研究室はもちろん、横浜国立大の野原研、和歌山大の永瀬研、九州大の黒瀬研、東京都市大の中島伸研、首都大の岡村研、新潟大の松井研が今学会に集まった



学会終了後には、恒例の西村研ファミリーでの懇親会がありました。かつて研究室の助教・准教授として活躍し、今では全国各地で自分の研究室を持つ先生たち。建築学会は彼らが一堂に会する貴重な機会でもあります。

### 「知」を共有すること

ここしばらく、都市デザイン研究室の修士の学生が学会で発表する機会が少ない。僕も研究室に所属してはや2年近く経つが、結局のところ建築学会にも都市計画学会にも論文を出すことはなかった。プロジェクトで調査したこと、経験したこと、あるいは自分の研究で行ってきたことをブラッシュアップしていけば（それが査読を通るか否かは別として）論文という形態にまとめることはできたのだろう。しかし、プロジェクトその他の忙しさを免罪符に、自分の得た「知」をまとめ、共有することから逃げていたのかもしれない。地域デザイン研究室をはじめ他の研究室が学会の準備に追われる様子を目にしつつ、また懇親会での都市デザイン研究室の人数の少なさを聞くと、実践だけでなく研究としての発表を行うことの必要性を感じ、今までそれをしてこなかったことへの少しの後悔がこみ上げる。

## Information



### Hey listen, -ちょっと聞いて！

9.8-9 半年の成果を展示しました



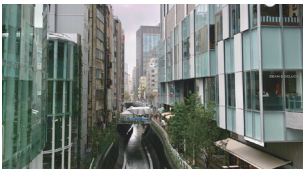
UDCTakと板橋区が主催する高島平グリーンテラスで展示をしました。パネル作成や発表を通してまちの見方が少し変わったかもしれませんが。(M1 藤原)

9.14 「これからの混在」を考える WS



各々の観点で都市の混在論に興味を持つ都市有志メンバーで、馬喰・横山町から鳥越・御徒町エリアをプレ調査。秋学期からは遂に輪講がスタートします！（D1 濱田）

9.18 交換留学生がやってきました



中国から交換留学生の Zhaoting Wei さんが9月18日に成田に到着し、お迎えに行きました。写真は一緒に見に行った渋谷ストリームです。(M1 原)

9.28 学部二年演習始まりました！



課題が変更された今年も、心地よい都市空間の発表とヒルサイドテラス見学からスタート。空間を学ぶ第一歩です。(M1 前山)

夏休み、各プロジェクトで現地調査・発表がありました。研究室を飛び出し活躍した9月でしたが、10月からは授業・スタジオ・研究室会議も始まり、日常に戻ってきます。

### 9月のWebマガジン

<http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/ja/blog/>



9.1 三国高校文化祭



9.7-11 シンポジウムに向けて



9.15-23 アーバニズムプレイス展

### 10月の予定

Lab Meeting

2nd, 16th, 22nd, 29th

01st (Mon.)	東京文化資源会議シンポジウム
02nd (Tue.)	秋入学生歓迎会
14th (Sun.)	内子シンポジウム
21st (Sun.)	高島平ロードレース
27th (Sat.)	富士吉田住民勉強会
31th (Wed.)	上野ラウンドテーブル

### ✖ 編集後記

私は歩いて登校している。自転車やバス、電車を使った方が早いし、落としたい脂肪もそれほどない。なぜわざわざ歩くのだろうか。北宋の歐陽脩は文章を考える場として馬上・枕上・廁上の三上を挙げている。さっきまで筆が重かったのはそこが机上だったからだろうか。歩いて家に帰っていると何があったわけでもなく途端に筆が進むようになるのはそこが路上だったからだろうか。では、あと二つは何上なのだろうか。ああ、明日も歩いて学校に向かおう。(M1 藤原)